

Curriculum Lab News

カリキュラムラボニュース

October 2009 Vol. 2

2009年10月 第2号

カリキュラムラボでは、引き続きカリキュラムおよび教師の評価、セミナーへの参加、教師研修、入学試験監修、ESLプログラムの改良などに力をいれてきました。ご家庭でのサポートに関してなど、ご意見ご質問はお気軽にお問い合わせください。

Education in China



2009年7月30日に大阪大学にて、「中国の教育政策と危機対応」について劉占山氏（中国領事館教育領事）講演の教育工学会が開催されました。大阪大学

の教授陣に混じり、学校経営企画室から立花綾乃、中国語カリキュラムコーディネーター崔真玉、枚方校マネージャー小川典子、カリキュラムラボから福田裕子が参加しました。中国の教育政策、今後の方針などの話をはじめ、2003年のSARS流行時とその後の教育現場の危機対応についてお話しいただきました。日本でも新型インフルエンザの流行が懸念されている現状で、関西国際学園での危機管理体制を見直す機会となりました。

今年ちょうど中華人民共和国設立60周年の節目に当たる年です。この60年の間、特に鄧小平による改革開放政策以降の30年間、中国では教育の世界でも大きな変化がありました。1949年の中華人民共和国建国当時は全人口の80%以上に識字能力がなく、

小学校入学者は20%にとどまっていた。しかし現在、高校への進学率は74%、大学への進学率は23.3%にまでなり、全国総人口のうち大学以上の教育を受けた人の数は8000万人近くにまで上ります。また、学生が就職するまでに受けた教育の平均年数は11年というデータが出ており、これは世界の平均年数を超えます。では、この60年の間、特に改革開放以来の30年間、どのような政策がここまで大きな変化をもたらしたのでしょうか。

中国の教育発展に関する政策



中国の教育における大きな発展のスタートは1986年に遡ります。第6回全国人民代表大会第四次会議にて「中華人民共和国

義務教育法」が可決され、2000年には世界における人口大国トップ9のうち、9年間の義務教育と識字率100%の計画目標を最も早く達成したと発表されています。この目標達成のためには以下のような政策がとられました。

まず政府中心の財政投入を主に、国民や社会の様々な分野からの支援を受けて、9年間の義務教育を普及させてきました。1986年全国の教育投資総額は214億元（＝3210億円）、1979年と比べて2倍となります。これに加えて小中学校の校舎の改築・新築を一般市民や各界からの寄付で賄い、学校環境が改善されました。2008年には全国で義務教育が無料となり、国家による義務教育実施が完全に実現されるようになりました。中国の経済・文化発展の地域差を考慮し、地域ごとの計画や、校種ごとの指導、段階的な実施という方法をとったことも有効的であったと言えるでしょう。また、1993年には監督指導検査制度を作り、監督指導局が設立され、これによって、義務教育法の検査と監督指導局による評価は義務教育の推進を制度的に保障するものとなりました。1998年には「共建・調整・合作・合併」という方針が国家により採決され、中央と地方政府が大学の管理・運営を行う体制となり、高等教育の発展が実現することとなったのです。

学校教育における危機対応

中国では、学校教育における危機対応にも力を入れており、2003年のSARS発生時には「突発性公共衛生時の応急条例」に沿って、学校への感染報告制度を施行しました。集団感染を防ぐため、感染拡大が認められた時点で休校することなど、地方自治体と学校それぞれが責任を持つように求められました。休校中は、学習への影響を抑えるため遠隔教育を行い、中国教育テレビ台により「空中課堂（電波による授業）」が開設され、各省の教育部とテレビ局が協力して番組が作成されました。また、インターネット企業との協力のもとに「在線課堂（オンライン授業）」も開設され、1100コマ以上の授業が提供されました。さらに教育部による「国家初中等教育資源ネットワーク」が予定より早く各地に開通され、インターネット上の動画閲覧システムによる授業が実現しました。統計によると、北京市教育委員会による「在線課堂（オンライン授業）」には一日に1000万人を超えるアクセスがあったとのことでした。

先の四川省大地震の際にも、震災が起きた当日の午後には、政府から地方の教育部門に緊急時対策案が発令され、迅速に災害援助グループが組まれました。これにより被災状況の詳細を把握することができ、救援隊、慰安隊を早急に送り出す事ができたのです。震災地の子ども達にはカウンセリングが行われ、「空中課堂（電波による授業）」が再導入されました。また、震災地の児童生徒を他の地域の学校で受け入れる要請を行い、自治体、政府の力によって、授業に遅れを取ることを最小限に抑えようとする取り組みがなされました。

今回の講演を通して、私たちも学ぶべき点が多々あると感じさせられました。日本では、新型インフルエンザの拡散が懸念され、一部の都道府県では休園を要請されました。それにより、小中学校では補習を行うなど学校単位で対応がされています。中国での学校教育における危機対応策を参考に、マルチメディア教材の導入を行っている関西国際学園でも、さまざまな状況に対応すべく、今後、更なるインフラの充実化を図っていきたいと思います。



8月31日 教師研修日

2009年8月31日には教師研修が行われました。6校の全教師が東大阪校に集まりました。1学期を振り返り、子ども達の様子に対応した学習を計画することおよび評価の注意点の確認、感染症と危機管理について、情報の交換と共有、マルチメディアの使用、フォニックスに関する再研修など、それぞれの子どもの年齢に必要な指導スキルを、各専門講師より指導しました。また、1学期に行われた教師評価の結果を伝え、2学期と3学期の計画について、E L C、K、Gの教師に分かれたミーティングも行われました。

ご家庭で試してみませんか？

子ども達にはそれぞれの年齢に応じて適切な対応があります。各部門の先生より、ご家庭でこんなことをしてみてもいいか・・・を聞いてみました。

ELC在園児の保護者のみなさまへ

ELCへの初めての登園は、お子様の社会生活への第一歩としての基盤を作ってくれる事になるでしょう。ここでは家庭という環境から離れ、自立することが必要とされてきます。そして、毎日の生活の中で、社交性および言語や身の回りの環境の知識を付け、生きていく力を学んでいくのです。

しかし、何と云っても家庭での教育が一番大切です。登園初日が緊張する日であるのは子ども達だけではなく、保護者の皆様にとっても同様であるかと思えます。登園に向けて靴やお弁当セットを準備したり、園生活がどのような楽しいものであるのかなど、是非一緒にお話ししてください。ここで、生活に変化がある事だけを強調する事はお子様を不安にさせてしまうかもしれません。子ども達はお父さん、お母さんの、言葉では表せない雰囲気までを感じ取る事が出来ます。保護者の皆様が落ち着いて、園に通う事を楽しみにしていただくことが、子ども達がさらに自信をもって通う事が出来るようになる秘訣です。それぞれの子ども達の園生活に慣れる時期は異なりますから、ご心配は無用です。私たち園スタッフが子ども達一人ひとりにあったサポートをさせていただきます。夜はよく寝て、朝ご飯をしっかりと食べる習慣をつけましょう。また、園に到着後、お子様が入りやすいように促し、先生と朝の挨拶を交わして下さることが、お子様にもよいお手本になります。保護者の方が安心して対話している相手にはお子様も安心し、心を開いてくれます。預けるときのお別れはとても心が痛むものです。しっかりと抱きしめてあげ、”今日はどんな楽しい事をするのかな”と一緒に楽しみにしていただける声かけと共に、またお迎えにくる事を話してあげてください。そして、その声かけも素早く、あとは保育士に預けていただく事で、お子様もサークルタイムの歌やダンスにすぐに熱中してくれます！ELCでの生活はいろいろなアクティビティが盛り込んであります。社交性や情緒を育む遊びや、言語習得や知識をつける時間でいっぱいです。園生活に対する保護者の方々の態度がお子様の気持ちにも反映します。また、ご家庭でもよい行い、よくない行いを見極め、自立や創造性をたくさんほめてあげてください。自分で決断することや、着替えを一人で行う、自分で食べることを促してあげましょう。園で楽しんでいる事を先生から聞いた場合は、ご家庭でもぜひ試してみてください！家族で過ごす時間は常に大切なひとときです。一緒に本を読み、ベビーサインを一緒にすることなどを通して、お子様とのコミュニケーションを増やして下さい。英語が話せるかどうかが問題なのではありません。子ども達は園で英語を吸収してくれるのでご安心ください。子ども達の成長はとても早いものですから、一日一日を一緒に楽しみましょうね！

Kクラス在園児の保護者のみなさまへ

どのように子どもに関わることが子どもの為になりますか？

お子様が園でどのようなことをしてきたのか、興味をもって聞いてあげてください。お子様の園生活での好きなこと、嫌いなことを知ったりすることは、ご家庭での好き嫌いとも異なります。また、分からない事は普段から質問をするよう促してあげてください。よく聞くことや、新しいことに挑戦することでさらにできることが増えることにつながる、ということを保護者の皆様から応援してあげてください。毎日の読み聞かせやナーサリータイム（韻をふんだ単語の出る詩）などをたくさんご家庭で取り入れていただくことが、さらにお子様も自信をつけて学習に取り組むことが出来る姿勢を作ることとなります。褒めて促して、子ども達に自信をつけてあげることが、学習への意欲を高め、基礎を培っている年齢の子ども達にはとても必要な要素です。

Gクラス在籍児童の保護者のみなさまへ

＜一緒に決断する事＞

会話で使う描写の表現を生徒と話しているときの事です。”最近スーパーマーケットに行って買ったものは何？”と聞くと、その生徒は驚いて、“スーパーマーケットでは何も買わないよ”と言ったのです。質問が不明確だったかな、と訂正をしました。”お母さんやお父さんがスーパーマーケットで買ったものは何かな？”と。それに対し、その生徒は首を振って言いました。”お母さんともお父さんとも誰ともスーパーマーケットには行った事がない”と。

家庭の生活面における決め事に子どもは参加していないことがあることに気がつきました。子ども達が早くから現金をもって買い物に行く事がよいと言っているではありません。しかし、例えばこのように食物の買い物に行く事はお子様と絆を深められるだけではなく、格好の学習の場にもなるのです。買い物に行く時は物事のながれや目的を伝えなければいけません。スーパーマーケットでの買い物に関しては、予算を立てて、買い物をしながらよい決定をする事が出来ます。安いものにする、セール品を購入する、まとめ買いをするなど、さまざまな方法の選択があります。最後に予算内で終わられたかどうか確認する事も出来ます。

また、英語で買ったものについて説明してみましょう。親子で知らない単語を書き出してみ、調べてみましょう。さらに子ども達ができるようであれば、それぞれの品物について説明文もつけてみましょう。その食物の描写、味、匂いや感触などについても説明してみましょう。

さらに、それぞれの買い物の際、その品物が出来るまでの過程を考えることは、サイエンスの学習にもなります。例えば、納豆は大豆を腐らせたものですし、ヨーグルトは牛乳を発酵させたもので、漬け物は野菜を酢漬けたものです。

70年前ならその品物はどうだっただろうか？と考えることもできます。その品物を購入する事は出来たのか、手に入らなかったのはどれか、それが無い事でどうしていたのか、などを想像してみてください。

お子様にご家庭の決め事に参加してもらう事は、慣れるまでは計画をすることも必要ですが、数回行う事により、子ども達が理解をし、何が必要かを自分で考える事が出来るようになってくるでしょう。このようなことに一緒に取り組む事で、親子の関係をより深められるだけではなく、子ども達が周りに対して感謝の気持ちを持つ事へもつながるでしょう。

今後のESL対策について

関西国際学園では、年齢と家庭環境を考え、子ども達一人一人の英語力の向上を常に評価しています。語学力評価表に基づいて、個人レッスンが必要と見なされたお子様には担任やカリキュラムラボスタッフより保護者のみなさまにお声をかけさせていただくこともございます。クラスでの学習にあと一押しで自信をつけることや基礎知識や会話力を強化する事は、後の学習により効果的な影響をもたらします。また、お子様の英語力に関してご心配な点やご相談がある場合は、個人面談等も可能ですので、お気軽に各校マネージャーにお声をおかけください。



言語と文化

文化が言語に影響を与えている例、歴史が言語の成り立ちに関わっている例は多数ありますが、ここでは挨拶と文化についてご紹介します。

英語での挨拶として”How are you?”というのは、誰しもが始めに学ぶことですが、ではその由来はどこにあるのでしょうか？西洋では古くから、狩猟文化があり、その後牧畜文化が栄えました。一家の主人は一家の大



黒柱であり、狩をしたり、動物を扱うには、健康でいてもらうことが重要でした。「今日の調子はどう？」と毎日聞きあうことから、今でも挨拶は毎日会う人でも、さほど親しくない人同士でも”How are you?”が継続しているといわれています。

では、日本では、どうでしょうか？日本は農耕社会主流で、みなで協力してする農作業には天候が重要でした。ですから、挨拶は「暑いですね」などと天気に関する挨拶が日本語では主流となっているのです。

参考文献：石井隆之・白石よしえ『英語の品格』

言語と文化との関わり

多言語を学ぶことは、異文化の理解と深く関わっています。K I Aの子ども達は、言語を学びながら異文化を肌で感じ、多様な考え方を吸収しています。それでは、異文化に住んでいるK I Aの先生達はどうでしょうか？



Tell Us About your Country!

外国人の先生に聞いてみよう！

Q：日本に住んでいる中で、自分の国と違うな、と一番感じたことは？

A：単一民族のため、人々が同じに見える（イギリス出身）

A：『グループの団結力の違い』チームワークは大切であるが、日本では調和を大切にすることが美德とされているが、欧米ではチームワークの活性のためなら反論してでも意見を述べるのが大切とされている。（アメリカ出身）

A：『日本で体験した、人々の本音と建前』間違っていることは間違っていると丁寧に、且つ明確に伝えて欲しい。（アメリカ出身）

A：『質問をされた際への受け答えの違い』

質問をされたら、必ず何らかの反応を示すべきであると教えられてきた。説明や理由が述べられない場合は、言い訳をしてでも何か返答しないと意見がないと思われる。かといって、言い訳するのはよしとされていない。先生に「言い訳をしてはいけません」と学校で教わるけれども、それでも何らかの「説明」はしないとけない。（カナダ出身）

